

四門会

第29号



聖マリアンナ医科大学
耳鼻咽喉科学教室同門会

目次

竹山 勇 名誉教授 お写真 ご略歴	3
追悼文	肥塚 泉 6
	大橋 徹 7
	岩武博也 8
	南 定 10
	服部康介 11
巻頭言	肥塚 泉 12
会長あいさつ	服部康介 13
医局長あいさつ	齋藤善光 14
新入医局員あいさつ	在原理瑛 15
	岡野洋平 16
	小池遥介 17
四門会賞	肥塚 泉 18
	齋藤善光 20
	望月文博 21
大学院生便り	笹野恭之 22
医局員報告 医局構成	23
出張病院および外勤病院	24
専門外来紹介	
頭頸部腫瘍外来	25
嚥下外来	27
喉頭・音声外来	28
副鼻腔・アレルギー外来	29
中耳・聴覚外来	30

めまい外来		31
小児耳鼻咽喉科外来		32
関連病院だより		
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	瀬尾 徹	33
川崎市立多摩病院	晝間 清	35
済生会川口総合病院	四戸達也	36
東京労災病院	藤井正文	37
独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター	佐々木祐幸	38
秦野赤十字病院	三上公志	39
横浜総合病院	森内 亨	40
国内留学だより		
国立がん研究センター中央病院	大原章裕	41
東邦大学医療センター大森病院	川島孝介	42
山王病院 国際医療福祉大学東京ボイスセンター	堀江怜央	43
OB通信	北島明美	44
	スミス馨子	46
	橋本久子	47
	吉野清美	49
肥塚 泉教授 最終講義	黒田寿史	51
第 25 回 四門会総会報告事項		53
第 25 回 四門会総会議事録		54
第 25 回 四門会総会 写真		55
会則		58
編集後記		62

竹山 勇 名誉教授



竹山 勇 名誉教授ご略歴

昭和 30 年 3 月	新潟大学医学部卒業
昭和 31 年 5 月	新潟大学耳鼻咽喉科学教室副手
昭和 34 年 7 月	国立東京第 2 病院耳鼻咽喉科・厚生技官
昭和 37 年 6 月	学位取得
昭和 38 年 7 月	東京都済生会中央病院耳鼻咽喉科副医長
昭和 44 年 8 月	静岡赤十字病院耳鼻咽喉科・気管食道科部長、慶応義塾大学医学部兼務 講師
昭和 46 年 6~9 月	Baylor College of Medicine
昭和 47 年 4 月	聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科非常勤講師
昭和 48 年 4 月	新潟大学耳鼻咽喉科非常勤講師
昭和 51 年 5 月	聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室教授
平成 2 年 4 月	聖マリアンナ医科大学病院副院長
平成 7 年 3 月	聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室教授退任
平成 7 年 4 月	聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室名誉教授

学会活動

日本平衡神経科学会 Active Member
日本耳鼻咽喉科学会評議員
日本気管食道科学会評議員
日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会理事
日本頭頸部腫瘍学会評議員
日本鼻科学会評議員
耳鼻咽喉科臨床学会運営委員
自律神経研究会運営委員
小児耳鼻咽喉科研究会運営委員
日本喉頭科学会評議員
Member of Bárány Society
日本頭頸部外科学会評議員
日本口腔・咽頭科学会評議員
神奈川医学会評議員

主催学会

第9回頭頸部手術手技研究会会長	昭和63年7月6日	横浜
第12回日本頭頸部腫瘍学会会長	昭和63年7月7日~8日	横浜
第50回日本平衡神経科学会会長	平成3年11月21日~22日	横浜
第55回耳鼻咽喉科臨床学会会長	平成5年7月7日~8日	横浜

竹山 勇 先生をしのんで

肥塚 泉

私は1981年（昭和56年）に聖マリアンナ医科大学を卒業と同時に郷里の大阪に戻り、大阪大医学医学部耳鼻咽喉科に入局しました。そして、大阪大学で約14年間を過ごしたのち、1995年（平成7年）に聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科に講師として帰学しました。その際の主任教授は加藤 功先生でした。1997年（平成9年）に助教授になり2000年（平成12年）から現在まで教授として務めさせていただいています。このような経歴である私にとって、竹山 勇先生の思い出は、学生時代の数年間と、その後、耳鼻咽喉科の全国学会でお会いしてその際2～3言、ご挨拶と近況報告をさせていただいた程度しかありません。四門会の諸先生方のように、竹山 勇先生との数々の思い出を熱く述べることは残念ながら私にはできませんが、この場を借りて、一言だけお礼を言わせていただきたいと思います。それは私が聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科に戻ってくる1～2年前のことです。私は1992年（平成4年）に大阪大学医学部耳鼻咽喉科の学内講師に就任しました。その当時、大阪大医学医学部耳鼻咽喉科の定員は教授1名、助教授1名、講師3名でした。優秀な先輩方が私の上に何人もおられ、私もそろそろ関連病院に出向くのかなと考え始めている時期でした（実際、1994年（平成6年）から1年間、東大阪市立病院耳鼻咽喉科に、部長として勤務していました。）そして1993年（平成5年）、大阪大学医学部名誉教授になられたばかりの松永 亨先生（故人）は、研究好きな私がそれを続けることができるような場として母校である聖マリアンナ医科大学をお考えになり、竹山 勇先生と、機会を設けて私のことをお話されたそうです。それをお聞きになり、竹山 勇先生の私が帰学することを快く引き受けてくださったのでした。3人の娘たち全員が転校という、本当に大変な引っ越しではありましたが、竹山 勇先生のお許しが無ければ、現在の自分は絶対にありえなかったと本当に感謝しています。天国の竹山 勇先生、お陰様で私もまもなく無事に、教授職を全うすることができそうです。「人生別離なくんば誰か恩愛の重きを知らん」という古人の言葉を思い出し、今更ながら先生から受けた恩愛の深さをしみじみと感じております。先生が心から愛され築かれた聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科が更に発展することを祈念して、先生への追悼文とさせていただきます。心より竹山 勇先生のご冥福をお祈りいたします。

竹山 勇 先生の思い出

大橋 徹

私は信州大学の耳鼻科を退任した時、父親の跡をついで開業医になるか、どこか病院に勤めるか悩んでいたのですが当時、竹山先生が静岡市の日赤病院の部長を勤めておられ私を強く引っ張って下さり、これ幸いと同病院に勤務することになったのです。耳鼻科は先生を中心に 5 人の医師からなっている大きな世帯でした。手術は小手術から頭頸部の大手術まで何でもやってきました。ここで先ず驚いたのは副鼻腔炎の手術でした。信州大には私の居た頃には鼻の手術の名手は居なかったのです。竹山先生のいわゆる蓄膿の手術を見たときには、恐らく西端式の（見た事は無いので想像ですが）手術に関連する手術法と推定しましたが、副鼻腔の病的粘膜をほぼ完璧に除去するものでした。上顎洞、前部—後部—最後部篩骨洞、更には蝶形洞、場合によっては前頭洞にも及ぶすごいものでした。ただ現在は副鼻腔粘膜はなるべく残す手法に変わっているようですね。その他にも臨床で教えていただく事は多々ありました。頭頸部腫瘍の手術もあざやかなものでした。竹山先生を私は臨床上の師匠と決めております。

余談ですが私にはもう一人聴覚生理学上の師匠もおります。私にはこのようなすごい二人の師匠を持つことが出来、まこと幸せ者です。

さてこの日赤病院で約 2 年以上経た時に竹山先生は聖マリアンナ医大の教授として赴任されてしまいました。その後、約 2 年経た後、先述の聴覚生理学の師匠の信州大の吉江信夫先生が筑波大学耳鼻科の教授に決まり、私にもそちらに行けと、これはほぼ命令でしたが。こようにして吉江先生が退官するまで長い期間、筑波大学におりました。その後、教授選に軽くやぶれ（元々、頭は良いほうじゃなかったですから）どうすべと悩んでいると、またまた竹山先生がこの不肖の私を聖マリアンナ医大耳鼻科に招いてくれたのです。

そこで又厳しくしごかれました。ゴルフもあちらこちら連れていってくれるのですが、私は全然駄目なので、遂にあきらめられました。学会も外国も含め、御一緒する事が多く楽しい想いを（主に飲み食いですが）させて頂きました。このように先生には長期間臨床耳鼻咽喉科学を教示して頂き深謝の念に耐えません。まことに有難うございました。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。どうか安らかにお眠りください。

竹山先生を偲んで ～四門会発足の思い出～

岩武博也

竹山先生には入局してから医師としての様々なことを教えていただきました。特に耳鼻咽喉科の基本的な処置についてはかなり細かくそして厳しく指導していただきました。耳鏡の持ち方や拡大耳鏡の使い方、鼻鏡の持ち方と固定方法、吸引管、通気管の持ち方、喉頭鏡やルブリンスキー氏喉頭蓋起子の使い方など外来の基本手技はもちろんのこと、手術室ではデビの時の軟骨膜下への麻酔注射の仕方、硬性食道鏡の挿入時の手指の使い方、助手としての頭持ち、など数えたらきりがありません。開業してもうすぐ20年が経とうとしております。自分で確立した診療スタイルのつもりで診療に従事しておりますが、ふと気づくと日々の診療は研修医時代に竹山先生から厳しく教えられたことがすべて基本となっているのだと最近感じていました。まさに「三つ子の魂百まで」ということでしょうか。もちろん、診療以外でも色々な思い出がありますが、ここでは四門会が発足するにあたって竹山先生との思い出について書き留めたいと思います。

竹山先生が開講10周年を迎え、同門会誌を企画され昭和63年に創刊号が発行されました。この創刊号に四門会の誕生秘話が記載されておりますので抜粋いたします。

ある日偶然に漢籍に目を通していた折に「四門を開く」という言葉が目に入り、「これだ！」という感応を得まして四門会という名を選びました。

私共、耳鼻咽喉科医は耳・鼻・咽・喉の四部門に携わり、現在では頭頸部外科という立場の考え方もあり、広い領域に亘る専門医を目指しております。従って耳鼻咽喉科全般に精通した良医の育成を目標としております教室の理念とも合致したものと思われ、四門会と命名した次第であります。

このように四門会という名称が決まったわけですが、平成7(1995)年3月に竹山先生が退官を迎えられるまで同門会としての会則や名簿は無く会誌だけでした。竹山先生が退官されて4月から私が医局長となることが決まっておりましたが、ある日教授室に呼ばれ「私が在職中に同門会の発足をする事が出来なかったのは誠に残念でならない。正式な同門会の発足に向けて準備を進めるように」とご指示をいただきました。もちろん私は医局長にすぎませんでしたので主任教授になられた加藤先生のご指導の元、岩澤先生、飯田先生、菊地原先生に御相談しながら、まずは名簿作りに奔走しました。開講当初、卒業生の医局員が少ない頃新潟大学を始め多くの先生方にお手伝いをいただいておりますのでその先生方にも同門会を発足いたしますので是非会員になっていただけますようお願いをいたしました。そして翌年の平成8(1996)年6月には同門会発足式が行われ加藤先生が初代同門会会長に就任し準備委員会において会則の作成など準備を整え、平成9(1997)年11月

30日に新宿住友ビルスカイルームにて記念すべき第1回四門会総会が開催されました。竹山先生から3年以内には総会を開催するようにとご指示をいただいておりますので何とかそのお約束を守る事が出来胸を撫で下ろしておりましたところ竹山先生から総会当日労いのお言葉をいただいたことを今でもよく覚えております。加藤先生が退官後、第2代会長に肥塚先生が就任、その後私が会長を勤めさせていただきました。現在では会員数も140名を越え竹山先生が四門会の名前に込めたように最近ではマリアンナ卒業生以外の会員も増えつつあります。

竹山先生が四門会の発足のために尽くされた功績に多大なる敬意を表しますとともに、そのご意思を大切にして四門会の更なる発展のために会員一同力を合わせて参ります。心より先生のご冥福をお祈り申し上げますと共に謹んで哀悼の意を表します。



竹山勇名誉教授を悼む

南 定

竹山先生とは聖マリアンナ医科大学に入学し、柔道部に入部、顧問であった先生と新入生歓迎コンパで初めてお会いしてからの付き合いとなりました。

大学 4 年生で私が主将を務めさせていただいた時の東医体で、初めて柔道部が団体優勝した時とても喜んで頂きました。

そして学生生活も終わり、医師国家試験の合格発表の日の前日夕方、突然自宅に竹山先生から電話があり「合格おめでとう。大学には早めに通知がくるんだ」「明日教授室に来てくれ」と・・・

翌日教授室に行くと、「南の家は耳鼻科だよな。また柔道部からの付き合いもあるし、分かっているよな」と。まだどの医局に入ろうか迷っていた時思わず、「よろしく願いいたします。」と答えてました。

そして竹山耳鼻科に入局し竹山先生から外来診療の方法、手術手技等様々な事を学び今あるのは本当に竹山先生のおかげだと感謝しております。

竹山先生は数多くの学会に参加しており四国の学会前やたらと変な咳をしていたので出発前日に無理やり X-P をお願いしその結果かなりの肺炎が見つかり宿泊ホテルに電話をしようやく夜に連絡が取れた時に相当酔われており「俺は大丈夫」と言うのを「このままだと死にますよ」と説得し何とか翌日に帰って入院治療し事なきを得たこともありました。

また、京都の学会で御一緒させていただいた時は祇園の茶屋に連れて行っていただき、良い思い出になっています。

竹山先生には公私共に大変お世話になり、感謝しかありません。

心よりご冥福を祈り申し上げます。

南 定先生は、令和 4 年 1 月 12 日に逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り致します

竹山 勇先生を偲んで

服部 康介

竹山 勇先生のお名前は、父が川崎市内で耳鼻科勤務医をしていたことや先生のお住いの近所に昔からの知人が住んでいたことから入学以前から存じ上げておりました。入学後、私は2学期から剣道部に入部。同じ三武会である柔道部の宴会の“お客さん”として、鬼ころしの一升瓶2本を抱えてお邪魔した時が先生のご尊顔を間近に拝見した最初の時でした。確か登戸の肉の松坂だったと思います。畳の上に正座をしてご挨拶申し上げたところ、鋭い眼光ながらも言葉遣いはあくまでも優しく丁寧、柔和に話しかけて下さったのを覚えています。歌詞も旋律も覚えていませんが、eins,zwei,dreiの掛け声と共に柔道部歌を先生と部員の皆さんが合唱していたのが印象的でした。

4年生になると耳鼻咽喉科学の講義が始まりました。5年生ではBed Side Learningでお世話になりましたが、先生と印象に残るような会話を交わさせていただく機会はありませんでした。

私が入局させていただいた年は丁度竹山先生が退任され、加藤 功先生が教授となられた年でした。医局の先輩方からは竹山先生の医局への情熱、医局員への指導の厳しさを何度も伺いました。先生から学ぶことはもうないのかと思っていたところ、幸運にも研修医2年間で明けた翌年にその機会はやってきました。入局3年目に私は千葉県銚子市の島田総合病院に派遣されましたが、竹山先生が外勤先として外来にいらしていたのです。確か1~2ヶ月に1度ほどだったと思います。前述の先輩方のお話から私は非常に厳しい先生なのだと言っていました。しかし先生は毎回私の行う外来をご覧になっては、手技の遣り方や意義などを誠に細かくご指導下さいました。何もわかっていない私に先生は声を荒げることも無く、本当に優しく丁寧に教えて下さいました。診療後の院長との会食にも何度かご一緒させていただいたことを覚えております。

前会長の岩武先生のもとで私の様な者が副会長を務めさせていただいたのも、竹山先生からのお声掛けがきっかけでした。現在会長として会員の皆様と共にあるのも竹山先生のおかげです。竹山先生の大切にされた同門会を及ばずながらこれからも守っていきたいと思います。先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

Last year and new era

肥塚 泉

この巻頭言を書いている 2021 年 10 月 27 日現在、日本においては、COVID-19 は終息に向かっているのではないかと思わせるような状況が続いています。四門会々員の先生方におかれましては、お変わりなくお過ごしでしょうか。

さて今年度、四門会では悲しい出来事がありました。「四門会」の名付け親でもある、竹山 勇名誉教授が 6 月、お亡くなりになりました。まさに「巨星墜つ」という例えが相応しいでしょう。先生のご冥福をお祈りするとともに、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の発展の基礎を築いていただいた先生の多大な功績に、深く感謝の意を表したいと思います。



さて私事ではありますが、2022 年 3 月 31 日付で、22 年間の教授職を定年退任となります。教授に就任した 2000 年、3 人の先輩教授から譲り受けた耳鼻咽喉科学教室を、どのように発展させればよいのかを暗中模索しているうちに、あっという間に 22 年間で過ぎ去りました。「少年老い易く学成り難し」、というのが実感です。この 22 年の間、医局員数の大幅な増減が繰り返され、本当につらい時期もありましたが、今現在は、若い先生たちが何人もいてアクティブに動き回っているという、活気に満ちた教室になりました。医師会、日耳鼻、日耳鼻神奈川県地方部会、川耳会などの要職を務めておられる先生方も増え、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室は、全国的に知れ渡る教室となりました。医局のスタッフ諸氏はもちろんのこと、四門会の会員の先生方には心より感謝しています。本年 12 月後半、新教授が決まります。新教授の新体制のもと、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室がさらに発展することを会員の一人として、お手伝いできればと考えています。2000 年に母校である聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の教授に就任してからの 22 年間、四門会の会員の先生方には物心共々お支えいただき、心より感謝しております。ありがとうございました。

会長あいさつ

服部康介

今年は昨年から延期されていた東京オリンピックの開催が有りました。観客の制限など通常の開催とは参りませんでした。この未曾有のパンデミックの中でなんとか無事に終了できたのは素晴らしいことだと思います。我々の同門会も理事会、総会共にオンラインと書面決議で今年も皆様とお会いすることは出来ませんでした。この挨拶文を書いている12月現在においてCovid-19第5波はほぼ終息して落ち着きを見せております。海外ではオミクロン株の感染者数の増加が見られ未だ予断を許しませんが、流行当初の様な死者数の報道は無く多少未来が見えてきたようにも思われます。やがてはまた以前のように皆様と同じ空間で理事会、総会を執り行う時が来ると今から楽しみにしております。

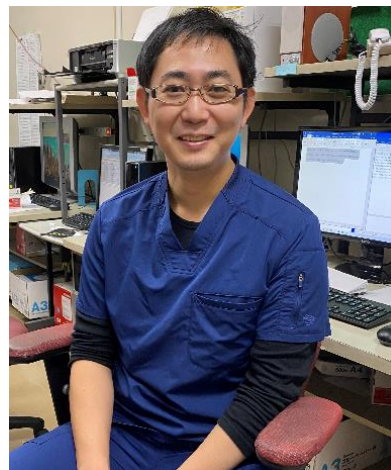


ところでこの同門会理事会では65歳定年制が設けられております。これから数年の間に現在の理事の多くが定年を迎えて辞めていかれます。どうぞ皆様、新しい理事となってこの会を盛り上げていけるようお力をお貸しください。また時代の流れに合わせて女性理事の活躍も期待したいと思います。遠方の方やなかなか時間の取れない方でも理事会に参加できるようオンラインでの参加も可能にしていきたいと考えております。是非宜しくお願い申し上げます。

医局長あいさつ

齋藤善光

2019年4月から引き続き、医局長を務めさせて頂いている齋藤善光です。早いもので、今年で3年目となります。昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症に振り回される1年となってしまいました。先生方もご存じの通り、耳鼻咽喉科は新型コロナウイルスへ暴露してしまう非常にハイリスクな診療科といわれておりますが、当医局員では幸いにも一人も感染者を出さず、1年を終えようとしております。12月現在では、感染者が激減した状況で継続しておりますが、年末年始に向け人流がさらに増加し、オミクロン株の感染力/重症化リスクによっては状況が一変すると思われれます。どのような情勢になっても一般診療と新型コロナウイルス感染症への診療を両立できるよう、継続的に気を引き締めていく所存です。



今年度の医局報告ですが、新入局者として在原理瑛、岡野洋平、小池遥介の新卒者3名が入局しました。今後、四門会および各学会等でお目にかかることもあるかと思いますが、ご指導の程宜しく願いいたします。また、現在の医局員数は、数年前から徐々に増加しており、総勢37名となりました。若手医師中心の医局となっており、非常に活気があり、親密な医局であることを自負しております。まだまだ粗削りな部分も多々あり、諸先輩方には多大なご迷惑もおかけしているとは思われれますが、今後も変わらぬご指導、ご鞭撻の程宜しく願い申し上げます。

2022年3月をもって当科教授である肥塚泉先生が退任されます。22年間という長期政権であり、今後、どのように医局が変化していくか、医局長として強い不安があります。新教授を4月から迎える形とはなりますが、肥塚先生から受け継いだマリアンナ精神を忘れず、更なる高みを目指し、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科の発展を遂げられるよう、邁進していきたいと考えております。

最後になりますが、2022年12月には、四門会の先生方と対面でお会いできることを楽しみにしております。新型コロナウイルス感染症含め、どうぞご自愛頂ければ幸いです。

新入医局員あいさつ

在原 理瑛

今年度、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室に入局させていただきました在原理瑛と申します。

私は東京女子医科大学に入学後、ダンス部、UDM(関東医療系大学ダンス連盟)に所属し、大学時代は部活動に全力を注いでいました。

大学卒業後、初期臨床研修より聖マリアンナ医科大学病院に入職しました。当初は他科への入局を決めておりましたが、研修医2年目の秋に初めて耳鼻科をローテートし、食す、嗅ぐ、聞く、発声する等、生活に直結している部分を診る科であることを知って興味を持ち、また何より温かい医局の雰囲気感動し、当科への入局を決意しました。

今年度は本院の急性期班でご指導いただいております。尊敬する先生方の下で働くことができ、とても幸せに思います。

まだまだ未熟な点が多く日々ご迷惑をおかけしていますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



新入医局員あいさつ

岡野洋平

2021年4月より聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室に入職させていただきました岡野洋平と申します。聖マリアンナ医科大学入学後はスノーボード部に所属しておりました。聖マリアンナ医科大学卒業後は、聖マリアンナ医科大学病院にて初期研修を行って参りました。父が耳鼻咽喉科であること、また聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科医局の雰囲気がとてもよく聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科医局に入局することを決意いたしました。耳鼻咽喉科学は外科的な側面を持ちつつ、外科以外の側面もあり、そこにも魅力を感じました。

今年度は聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院にて上級医の先生方のご指導の下、日々診療に勤しんでいます。

皆様には多大なご迷惑をおかけすることもあると思いますが、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科医局員の1人として1人前になるべく精進して参りますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



新入医局員あいさつ

小池遥介

この度令和 3 年 4 月より聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室に入局させていただきました小池遥介と申します。現在は大学病院の腫瘍班で頭頸部腫瘍の化学療法や手術の治療について学ばせて頂いております。

1 年次に耳鼻科をローテートするまでは耳鼻科のことはよくわかっていませんでした。実際に研修を行ってみて、諸先生方からご指導いただき耳鼻科に興味を持ちました。

1 年次は 1 か月しか研修行えなかったため、2 年次にもローテートし、手術や外来手技を経験させていただき、また耳鼻科領域で行われる専門の診療にふれることもでき充実した研修を行うことができました。

耳鼻科の多岐にわたる専門分野に興味を持ち、各分野で学べる環境が整っている医局に魅力を感じ入局を決めました。

日々の業務ではわからないことも多くご迷惑をおかけしていますが、チーム問わずサポートして下さる先生方のおかげで楽しく研修生活を送ることができています。

そのような先生方に少しでも近づける様に日々精進してまいりますので、今後ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



四門会賞

令和3年度四門会賞を受賞してー前庭神経炎診療ガイドライン 2021年版ー

肥塚 泉

前庭神経炎は、難聴、耳鳴、耳閉感などの聴覚症状を伴わない、突発性の回転性めまい症状をきたす疾患です。前庭神経炎の診断基準は、1981年に厚生省前庭機能異常調査研究班が「前庭機能異常診断の手引き」を作成し、前庭神経炎の診断基準を提案しました。次に、1987年に日本めまい平衡医学会が「めまい疾患の診断基準化のための資料」を作成し、前庭神経炎の診断基準を提案しました。2016～2017年度厚生労働省難治性めまい疾患に関する調査研究班により前庭神経炎の診断基準の改訂が行われ、2017年に日本めまい平衡医学会が「めまい疾患の診断基準化のための資料」で前庭神経炎の診断基準を改訂しました。また、厚生労働省前庭機能異常調査研究班、厚生労働省難治性平衡機能障害に関する調査研究班、

厚生労働省難治性めまい疾患に関する研究班、日本医療研究開発機構（AMED）難治性疾患実用化事業難治性めまい疾患の診療の質を高める研究班（AMED研究班）により調査ならびに研究が行われてきました。AMED研究班により、前庭神経炎の治療において特に重要なテーマに対して、クリニカルクエスチョンとしてシステムティックレビューが実施され、「前庭神経炎診療ガイドライン 2018年版」（案）が作成されました。本診療ガイドライン作成委員会（委員長：肥塚 泉）では、「前庭神経炎診療ガイドライン 2018年版」（案）を元に、『Minds（公益財団法人日本医療機能評価機構）診療ガイドライン作成の手引き 2014』に準拠して診療ガイドラインの策定を行いました。そして、本診療ガイドラインは日本めまい平衡医学会の理事会の審議を経て完成し、2021年5月15日に発行、9月にはMindsのホームページに掲載されました。

https://minds.jcqh.or.jp/medical_guideline/guideline_list



四門会賞

令和3年度四門会賞を受賞して－耳鼻咽喉科教育・育成功労賞 2020 受賞－

肥塚 泉

令和3年5月12日～15日に京都で開催された第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会で、耳鼻咽喉科教育・育成功労賞 2020を受賞しました。この賞の目的は、「卒前・卒後の耳鼻咽喉科医の教育および育成において優れた実績を上げた医育機関を表彰することにより、医育機関における教育・研修・指導の一層の向上および発展に寄与することを目的とする。」で、今回の受賞理由は、「耳鼻咽喉科になった医師の出身校を、過去5年間について調査したところ、聖マリアンナ医科大学が一番多かった」というものでした。しかしながら実際は、聖マリアンナ医科大学を卒業して、他大学で専攻医になった先生方が数多く含まれていますので、決して、我々耳鼻咽喉科の入局者が多かったというわけではありません。しかしながら、耳鼻咽喉科の医師数の増加に、少しはお役に立てたのではないかと思います、今回の受賞、教室員一同、名誉なことと大変喜んでいきます。

現在、3年時の耳鼻咽喉科の講義は我々が担当するのはもちろんですが、他科の講義でも、耳鼻咽喉科に関連する分野については、我々耳鼻咽喉科が講義を担当しています。具体的には、1年時の「人体と細胞の構造と機能」（解剖学と生理学）では、「聴覚」の講義、「実践医学」では、「航空宇宙医学」の講義を担当しています。2年時の「消化器」では「咀嚼と嚥下の機構（舌と唾液腺の機構を含む）」、そして3年時の「中毒・環境因子」では「加速度病の病態と診断」も、我々が講義を担当しています。いわゆる major 科ではない耳鼻咽喉科が、様々な分野で活躍しているということを知ってもらえた結果ではないかと考えています。学生たちに、もっと耳鼻咽喉科の魅力を伝えることが出来るような教育ができるよう教室員一同、更なる研鑽を積む所存です。ありがとうございました。



四門会賞

－日本気管食道科学会 奨励賞－

齋藤善光

今回、日本気管食道科学会より、「咽喉頭食道異物を主訴に受診した 1714 例の検討」にて、食道系の部門で奨励賞を受賞させて頂きました。本報告は 2016 年に同学会にてポスター賞を受賞した内容に、さらに症例数を増やし、検討項目を追加した内容となっております。

当院には年間約 200 例以上の異物症例が受診しており、その 9 割は夜間救急を受診します。このような症例数の報告が出来たのは当直の先生方が、寝ずに異物と格闘して頂いた賜物と思われます。この場をお借りして御礼申し上げます。

肝心の論文内容は、お恥ずかしい話ではありますが、特別ハイレベルな研究や画期的な治療/検査方法を検討したわけでもない、至って普通の論文です……。その為、受賞したことは非常に誇らしいですが、いささか恥ずかしさも残ります。恐らく表彰理由は、症例数の多さであると思ひます。これは、夜な夜な一人で病棟に上がり、1700 例を超える症例のカルテをポチポチいじっていた努力が評価されたのかと。悲観的な推察ではありましたが、「努力をすれば報われる」、という言葉を実感したような印象です。努力は人を決して裏切りません。生意気にはなりますが、若手の先生方も、地道に努力をすればいつか実が結ばれると思ひますので、頑張ってもらえたら嬉しいです。

いずれにしても、私が尊敬する諸先輩方に少しではありますが近づけたかと思うと嬉しい限りです。また、肥塚教授が退任の年に、花を添えるような事が出来き、微弱ながら恩義に報いる事が出来たかと思っております。

現在私は、鼻科学を中心に研究を行っておりますが、今後も周囲の先生方から評価されるような臨床研究を行っていきたくて考えております。また、その結果を元に、患者様へ還元する事を最終目標とし、精進していきたくて思ひます。



四門会賞

－日本めまい平衡医学会 学会賞－

望月文博

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科教室に所属させて頂いて、早いもので8年目になりました。昨年、医学博士を取得し、聖マリアンナ医科大学病院にて、助教として勤務させて頂いております。大学院での主論文として、めまい平衡医学会誌に投稿しました「偏垂直軸回転(off-vertical axis rotation:OVAR)条件下における平面スクリーンを用いた視覚刺激が半規管-動眼反射および耳石-動眼反射におよぼす影響」にて、今年めまい平衡医学会賞に選ばれ、この度四門会賞を受賞させて頂きました。学会発表時に、視覚前庭矛盾刺激を行っていた過去の研究を含めて高く評価して頂き、今までの研究を支えて下さった諸先輩方に誠に感謝しております。今後も、めまい平衡医学会に貢献できるように、研究およびめまい診療に邁進していきたいと思っております。

四門会賞は、平成29年（めまい平衡医学会ポスター賞）と、令和2年（めまい平衡医学会学会賞）にも受賞させて頂き今回で3回目となり、とても嬉しく思っております。これらの功績は、肥塚先生をはじめ、諸先輩方からの指導と、医局員の先生方からのバックアップによるものですので、この場をお借りして感謝の意を伝えたいと思っております。ありがとうございました。

コロナ禍であり少し不安もありますが、2022年3月より、フロリダ州マイアミ大学の神経耳科教室に、研究留学を予定しております。さらに、力をつけて戻ってきたいと考えておりますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。



大学院生便り

笹野恭之（大学院4年）

大学院4年生の笹野恭之と申します。聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科に入局して現在5年目となります。この度は昨年に引き続き大学院便りを書かせていただける機会を頂きました。

私の研究テーマは「肩関節への体性感覚入力が半規管動眼反射と耳石器動眼反射におよぼす影響」です。これまで北島先生、宮本先生、三上先生ら諸先輩方が行われてきた研究の蓄積のもと新たにデータを収集し、昨年の第79回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会にて、研究報告をいたしました。肥塚教授から多くの先生方が行ってきた回転椅子の研究に携われることに大きなやりがいを感じております。今年度は研究内容を論文投稿し、学位審査を受ける予定となっております。

今後も神経耳科学分野に対して臨床を行いつつ、研究も行っていけたらと考えております。この臨床から離れず研究をできる聖マリアンナ医科大学の臨床研究医のシステムは、非常に魅力的だと感じておりますが、私より下の学年として大学院に入学している医局員はいない状態になっているので、どうかこの状況を打破したいと考えております。

まだまだ未熟者ではございますが、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科および患者様に貢献できるよう精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



平衡機能検査室 回転椅子

医局構成

令和4年1月1日現在

客員教授	大橋 徹・加藤 功
教 授	肥塚 泉
病院教授	瀬尾 徹
特任教授	岡田智幸
准 教 授	晝間 清
講 師	春日井 滋・小森 学・佐々木祐幸・深澤雅彦・宮本康裕
助 教	齋藤善光（医局長） 明石愛美・荒井光太郎・稲垣太朗・伊藤友祐・大原章裕・小野瀬好英 神川文彰・川島孝介・四戸達也・中村 学・西本寛志・三上公志・望月文博
任期付助教	青海瑞穂・赤羽邦彬・在原理瑛・岩武桜子・岡野洋平・久保佑介 小池遥介・多村悠紀・藤井正文・堀江怜央・森内 亨・森田 翔 山田善宥
大学院生	笹野恭之
非常勤講師	芋川英紀・岩武博也・及川貴生・大草方子・越智健太郎・小宅大輔 北島明美・木下裕継・工藤典代・釘持 睦・佐藤成樹・新橋 涉・武田憲昭 中村 正・日比野 浩・谷口 雄一郎
登 録 医	高橋 姿
研 究 員	犬飼賢也・加藤弓子
診療技術員	北林圭子・久保田恵子・久保田成美・澤田久美子・中嶋聡美
医局秘書	秋山恵子
教授秘書	井上佐世子、鈴木 愛（育児休暇）
関連病院	AOI 国際病院、麻生総合病院、稲城市立病院、稲城台病院、 川崎市立多摩病院、癌研有明病院、共立蒲原総合病院、京浜総合病院、 済生会川口総合病院、左近山診療所、慈泉堂病院、島田総合病院、湘南病院、 総合高津中央病院、ソレイユ川崎、東京労災病院、 独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター、 秦野赤十字病院、淵野辺総合病院、横浜市西部病院、横浜総合病院

（50音順敬称略）

出張病院および外勤病院

病院名	赴任医師	電話	fax
西部病院	瀬尾 徹 中村 学 山田善宥 岡野洋平	045-366-1111	045-366-1190
多摩病院	晝間 清 多村悠紀 森田 翔	044-933-8111	044-930-5181
癌研有明病院	新橋 涉	03-3520-0111	03-3570-0343
済生会川口総合病院	四戸達也 荒井光太郎	048-253-1551	048-256-5703
東京労災病院	藤井正文	03-3742-7301	
独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター	佐々木祐幸 西本寛志	045-851-2621	045-851-3902
秦野赤十字病院	三上公志 小野瀬好英	0463-81-3721	0463-82-4416
横浜総合病院	森内 亨	045-902-0001	045-903-3098
AOI 国際病院	外勤医師	044-277-5511	044-277-5747
麻生総合病院	外勤医師	044-987-2522	044-988-0878
稲城市立病院	外勤医師	042-377-0931	042-379-1310
稲城台病院	外勤医師	042-331-5531	045-331-6287
共立蒲原総合病院	外勤医師	0545-81-2211	0545-81-2208
京浜総合病院	外勤医師	044-777-3251	044-777-7319
左近山診療所	外勤医師	045-352-4184	045-352-4183
慈泉堂病院	外勤医師	0295-72-1550	0295-72-1578
島田総合病院	外勤医師	0479-22-5401	0479-23-3613
湘南病院	外勤医師	046-865-4105	046-866-4584
総合高津中央病院	外勤医師	044-822-6121	044-822-7995
ソレイユ川崎	外勤医師	044-959-3003	044-954-5581
淵野辺総合病院	外勤医師	042-754-3700	042-754-2201

≪頭頸部腫瘍外来≫ 火曜日AM

担当医：春日井滋、深澤雅彦、明石愛美、久保佑介

現在は、春日井、深澤、明石、久保の4人で行っております。

前年度はコロナウィルスの影響もあり、良性腫瘍手術に関しては一時的に延期の対応をさせていただいておりましたが、現在は良悪性問わず、手術を通常通り行っております。手術枠も麻酔科との連携で柔軟に対応して頂き、患者様のニーズに合わせ、スムーズに施行させて頂いている次第です。

手術症例だけではなく、放射線治療、化学療法についても、日々、アップデートしています。外来通院にて化学療法施行可能なレジメンも増え、患者様の生活背景によって腫瘍センターと連携し、治療を行っています。本年度は新しい免疫チェックポイント阻害薬であるキイトルーダ®を治療開始しております。再発または遠隔転移を有する頭頸部癌に対する1次治療として承認されました。当科では免疫チェックポイント阻害薬としてはニボルマブ®、キイトルーダ®を使用しておりますが、どちらも免疫関連副作用(irAE)など特徴的な副作用が出現する可能性を留意する必要があります。そのため、当院では多診療科や多職種による連携をとり、マネージメントを実施しています。また、治療の選択肢として遺伝子パネル検査を施行し、更なる化学療法の選択肢を検索する方法も出てきています。患者様のニーズに合わせ、当科だけでなく、腫瘍内科と連携し、診療にあたっております。

本年度より当医局員の大原章裕が国立がん研究センター中央病院頭頸部腫瘍内科にて国内留学中です。昨今のめまぐるしい化学療法の選択肢の増加に合わせ、最先端の知識を学んでおります。彼の今後の当院での活躍をチーム一同待ちわびております。

OBの先生方を含む、近隣医療機関からの頭頸部腫瘍のご紹介があり、年々、頭頸部症例や手術件数は増加しております。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。引き続き、頭頸部腫瘍症例に関しましては当院へご紹介をよろしくお願いいたします。頭頸部患者様の高齢化も進んでおり、治療選択の難しさを痛感しています。患者様ご本人およびご家族の意向に沿った、治療選択ができるよう腫瘍チームだけでなく、地域連携看護チームとも協力し取り組んでいる次第ですので、ご高齢の症例などもご相談いただければ幸いです。

頭頸部腫瘍チーム一丸となって、カンファレンスを繰り返し患者様の各々に見合った治療を提供できるよう日々、心がけています。引き続き、地域の患者様には信頼のおける治療を提供し、安心して頂けるよう心掛けて参りますので今後ともよろしくお願いいたします。(明石愛美)



《嚥下外来》 火曜日 PM

担当医：春日井 滋、神川文彰、久保佑介

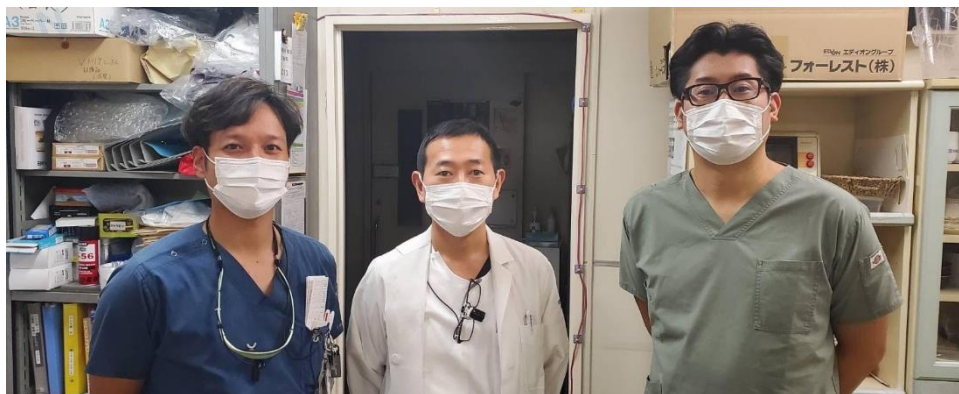
2021年4月より聖マリアンナ医科大学病院本院に勤務をさせていただいております久保佑介と申します。2018年から西部病院、東京労災病院での勤務を経て、研修医以来の本院勤務となりました。これまで分院、市中病院での勤務では地域に根付いた地域医療、そして主治医制度でいわゆる common disease を主とした日常診療にあたって参りました。

今年度より本院では腫瘍班に配属となり、主に頭頸部癌の治療にチームで携わり、専門外来では春日井滋先生、神川文彰先生とともに嚥下外来を担当させていただいております。主に嚥下内視鏡検査での評価を ST と行っており、週に1度、耳鼻咽喉科・神経内科・ST で嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査の振り返りと予定患者について嚥下カンファレンスを行っております。

嚥下外来では外来患者、入院患者を問わずさまざまな患者様が受診されます。脳梗塞後、神経変性疾患、術後反回神経麻痺、廃用症候群など幅広い背景です。また受診のタイミングもさまざまで、一時的な絶食後の経口摂取再開時の方もいれば、嚥下困難感で受診された結果神経変性疾患の診断となった方もいらっしゃいます。その方の嚥下機能に応じて食形態の調整や適切なりハビリテーションを行うことで栄養状態の向上につながり、さらには退院へ向かうことができ、その過程を目で見て追うことができる嚥下内視鏡検査での経過フォローでは達成感を感じます。

腫瘍班の頭頸部癌術後や化学放射線治療後の患者様は嚥下機能が低下しますが、その評価も嚥下外来で行っております。中には嚥下評価の結果、経口摂取が可能となる見込みが低く、栄養経路の切り替えを検討することもあります。その後は胃瘻や CV ポートなどへの切り替えが必要となり、栄養経路に応じた退院に向けての指導や退院後の社会調整に介入することとなります。そこには患者様本人だけでなく、ご家族の協力が不可欠であり、まさに患者に寄り添った医療が必要とされる場面であると日々痛感しております。

これからも同門会の諸先生方や医局の力となれるよう日々精進して参りますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。(久保佑介)



《喉頭・音声外来》 水曜AM

担当医：春日井滋、神川文彰

喉頭・音声外来は毎週水曜日の午前中に春日井滋、神川文彰の2名体制で行っております。

主に扱う疾患は声帯ポリープ・声帯結節・ポリープ様声帯といった良性疾患や喉頭腫瘍、声帯麻痺などとなっております。外来内容としましては、音声機能検査・ストロボスコーピー・音響分析検査などを行い手術適応を含め評価しております。また、言語聴覚士と協力し術前より音声リハビリテーションを導入しております。

まだまだ未熟者ではありますが、春日井先生の指導のもと患者様のニーズに合わせて適切な治療を提供できるよう日々心がけております。

手術件数はまだまだ不足している状況ですので、今後とも是非紹介していただくと幸いです。

これからも、より良い医療を提供できるよう一層精進して参りますので、引き続きご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。（神川文彰）



《副鼻腔・アレルギー外来》 水曜PM

担当医：宮本康裕、齋藤善光、稲垣太朗

2021年4月より宮本康裕・齋藤善光・稲垣太朗・岩武桜子が大学病院にて水曜日午後、鼻・副鼻腔・アレルギー外来を担当しております。2020年は世界を取り巻く新型コロナウイルスの蔓延の影響により一時、全身麻酔を含む全ての外科的処置をやむなく一時中断していた時期もありました。しかし、現在は鼻副鼻腔手術件数も例年の通りの件数を行なっております。

当外来の特徴としては慢性副鼻腔炎をはじめとした様々な疾患やアレルギー疾患を扱っている点であります。年間150件を超える内視鏡下鼻副鼻腔手術（I～V型）をはじめとし、脳神経外科と連携した頭蓋底手術、さらには日帰りのポリープ切除術や、外来での下甲介ラジオ波凝固治療など様々な外科的治療を行なっております。また今までは外来患者の多くは副鼻腔疾患が大多数を占めておりましたが、昨今では新型コロナウイルス感染の後遺症として嗅覚・味覚障害を主訴として受診される患者様も増加傾向であります。

アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法、重症のアレルギー性鼻炎や好酸球性副鼻腔炎に対しては、外科治療のみならずモノクローナル抗体製剤を用いた治療も行なっております。このように、患者様の疾患やニーズに合わせ、幅広い様々な治療を提供できるよう日々心がけております。近隣にご開業の先生方には日頃より多くの手術症例をご紹介いただきましてまことにありがとうございます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

（稲垣太朗）



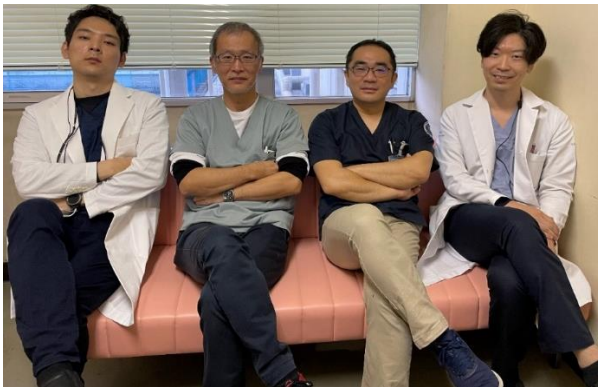
《中耳・聴覚外来》 木曜PM

担当医：宮本康裕、小森 学、稲垣太郎、笹野恭之
越智健太郎、木下裕継、釘持睦

入局5年目の笹野恭之と申します。現在、聴覚外来は毎週木曜日午後宮本康裕、小森学、稲垣太郎、笹野恭之、木下裕継(非常勤)、釘持睦(非常勤)、越智健太郎(非常勤)の7名で診療を行っております。慢性中耳炎や中耳真珠腫などに対する手術から、内耳窓閉鎖術や顔面神経減荷術などの神経耳科分野に対する手術、人工内耳挿入術など人工聴覚器に関する手術まで幅広く診療を行っております。

私はまだまだ診療において未熟な面も多々ございますが、今年度は耳鼻科医になったら絶対に行いたいと考えていた人工内耳挿入術の適応のある症例を担当し、執刀させていただいたことが自分にとっての大きな経験となりました。学会活動としては10月にヒルトン東京お台場で開催された第31回日本耳科学会総会・学術講演会の一般演題で耳性髄液漏閉鎖術に関しての発表を行いました。今後も精進してまいりたいと考えております。

OBの先生方におかれましては、いつも患者様をご紹介いただき誠にありがとうございます。コロナの影響もございましたが、手術件数もコロナ以前と同様に維持しております。この場をお借りして御礼申し上げます。今後も患者様により良い医療が提供できるように努力していく所存でございますので、何卒一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。(笹野恭之)



中耳・聴覚外来メンバー
(稲垣・宮本・小森・笹野)



第31回日本耳科学会総会・学術講演会にて(小森・笹野)

《めまい外来》 金曜 PM

担当医：肥塚 泉、望月文博、伊藤友祐、
笹野恭之、赤羽邦彬、小池遥介

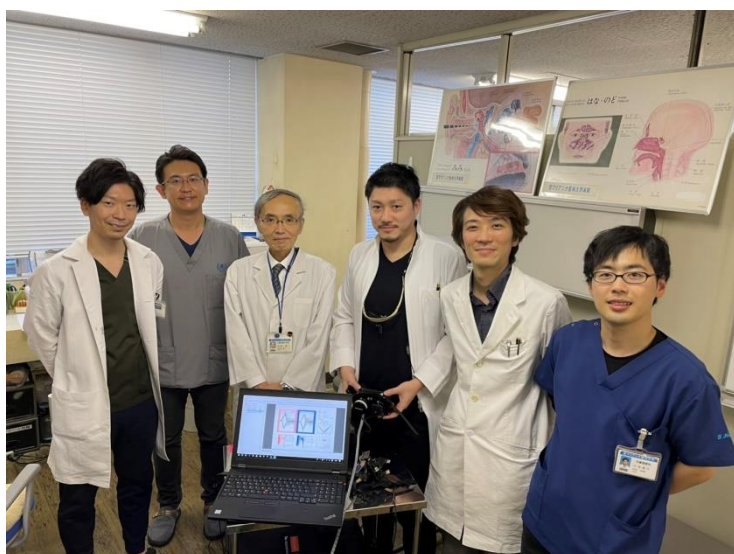
めまい外来は、4月からは笹野先生、赤羽先生、10月からは小池先生が加わり、今年度は肥塚先生をはじめ6名で金曜午後に担当しております。

平素より貴重な症例をご紹介いただきありがとうございます。コロナ禍にあっても、多くの症例を診療ができるのも、ひとえに先生方のおかげであり、この場を持ちました御礼申し上げます。

望月先生が「偏垂直軸回転（off-vertical axis rotation : OVAR）条件下における平面スクリーンを用いた視覚刺激が半規管一動眼反射および耳石一動眼反射におよぼす影響」を *Equilibrium Research* に投稿し、昨年に引き続き2年連続で学会賞を受賞されました。第80回日本めまい平衡医学会・学術講演会にて受賞講演が行われました。

また、臨床面ではメニエール病精査目的に積極的に内耳造影MRI（HYDROPS法）の撮影を行い、適応があれば内リンパ嚢開放術を行っています。比較的新しく提唱された疾患である前庭性片頭痛や持続性知覚性姿勢誘発めまい（PPPD）に対しても、治療を行っております。

今後もより良いめまい診療ができるように精進して参りますので、何卒よろしく申し上げます。（伊藤友祐）



《小児耳鼻咽喉科外来》 第三土曜 AM

担当医：小森 学

小児耳鼻咽喉科外来を立ち上げて1年ほどになります。就学前に言語療法が必要なお子さん（構音障害など）も徐々に増えてきている状態です。小児補聴器外来も同時に行っておりますが、通常的气導補聴器だけでなく骨導補聴器や軟骨伝導補聴器なども必要に応じて導入しております。平日の外来と比較して一般外来の患者さんが少ないため検査などもスムーズに行っております。



小児の耳鼻咽喉科疾患は成長を

考えた上でサポートする必要があります。睡眠時無呼吸で来られた方も扁桃とアデノイド切除だけを行えばいいのではなく、鼻呼吸（特にアレルギー性鼻炎）も含めたサポートが必要となります。また機能性難聴患者は比較的都心に多い傾向があると思いますが、コロナ禍において少し増加している印象もあります。心理発達面も含めたサポートが可能なのは大学病院ならではの考えます。

Zoom を用いたオンラインでの病診連携が進んできたので是非今年も周辺の内科・小児科・産科の先生とも連携が取れるように願っております。言語聴覚士も積極的に周辺療育施設との連携をはかれるように連絡を密にとっている状態です。

また、今年の10月から川崎市では新生児聴覚スクリーニング検査の公費制度が開始されました。マニュアルに先天性サイトメガロウイルス感染症の啓発（出生3週以内の検査）の要望を申したところ取り入れて頂きました。恐らくこの文言が入っている自治体は全国でも少なく画期的なことと考えます。

外来は両親と児の来院が比較的容易な土曜日を外来日としております（現在は第1第3土曜日）。対象疾患は先天性難聴、滲出性中耳炎、慢性中耳炎、言語発達遅滞、構音障害、音声障害などからアレルギー性鼻炎の舌下免疫療法、睡眠時無呼吸、喉頭・気管疾患（喉頭軟弱症や気管カニューレトラブルなど）などの他、先天性の症候群性疾患も対象としております。小児耳鼻咽喉科としての専門外来を持っている大学病院は少ないためお困りの場合には是非一度ご相談頂けましたら幸いに存じます。（小森学）

関連病院だより 《聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院》

部長・病院教授 瀬尾 徹

主任医長・助教 中村 学

医員・任期付助教 山田 善宥、青海 瑞穂、岡野 洋平

2021年4月より西部病院は1名増員となり5名となりました。小生と中村君以外は交代し、人心一新となっています。昨年までもそうでしたが個性豊かな3人がフルに活躍してくれています。当院では、現時点でも入院は必要最小限におさえるために、突発性難聴、ベル麻痺などのステロイドパルス療法については、可能な限り外来で実施しています。そのため入院件数は減少したままですが、手術実績についてはコロナ禍以前の業績を凌ぐようになってきました。とくに、中耳手術、鼻副鼻腔手術が順調に増加しつつあることはうれしい限りです。また私のライフワークであるめまいの外科手術についても他施設よりの紹介も増えてきております。



8月以降は、毎週耳科手術が入るようになってきました。耳科手術が増加した理由として、手術希望の紹介患者が増えたこともあります。若いスタッフが中耳疾患の治療についてある程度理解できてきたことが挙げられます。慢性中耳炎や真珠腫性中耳炎について漫然と耳処置のみ実施するのではなく、消炎傾向にあれば手術適応について相談に来るようになってきました。また、耳硬化症についても、適切に診断が行えるようになり手術の適否について相談に来ることも増えてきました。スタッフの臨床力のボトムアップにともない、その結果として手術症例も増えてきたものと思っています。

若いスタッフと話していると、新しいめまいの疾患概念である前庭性片頭痛や PPPD について一定の知識があります。非常によく勉強しているようです。しかし、彼らにとって目の前の患者をそれらと診断することは難しいようです。めまい疾患の診断技術についても、ボトムアップを図りたいと思っています。

現在西部病院では、2020年の大規模クラスターの余韻をほぼ払拭できたものと思っています。いわゆる with コロナ時代の西部病院の在り方を模索し、軌道修正を行いつつ頑張っていきたいと思っています。四門会の先生方には引き続きお世話になるかと思っています。今後ともご指導、ご支援よろしくお願ひ申し上げます。(瀬尾徹)



中耳手術風景



正中頸囊胞手術

関連病院だより 《川崎市立多摩病院》

部長：晝間 清

医員：多村悠紀、森田 翔

11月になり、今年も四門会の原稿を求められる季節となりました。コロナ禍でどうなることかと気をもんでいた、東京2020オリンピック・パラリンピックが、何とか終わり、新型コロナ感染者数の減少がニュースで伝えられるようになると、それを見越していたとばかりに、岸田首相の1週間早い、衆議院解散が功を奏したのか、蓋を開ければ、自民党の安定多数という結果に終わり、いつもながらに日本人の絶妙なバランス感覚に感心します。さて当病院はというと、4月に鈴木香先生と森内亨先生が移動となり、大学から森田翔先生（聖マリアンナ医大、平成28年卒）が来てくれました。今年度から、残ってくれた多村悠紀先生を含め、常勤医3名の減員となりました。医局の事情ということなのですが、何よりも大きな痛手だったのが、期待されていた鈴木先生の退職とします。耳鼻科医をやめて、大手製薬会社への就職とのことで、新しい分野でのご活躍をお祈りするばかり



です。このため、ひとり減員のかわりに齋藤医局長には、手術日の木曜日と金曜日の午前中に大学から外来診療のための派遣をお願いしました。そこで来てもらったのが、鈴木先生と同じ慈恵医大出身で、大学でめまいを研究している、伊藤友祐先生（平成24年卒）です。彼のおかげで、午前中から3人で入るような頸部の手術などが可能となり、手術件数も増やせるということで、責任者としては密かに喜んでいます。ただ、如何せん、常勤医が3人ですと、学会参加などが思うようにできない（小生が休むと、手術が基本的にはできず、手術日が空いてしまう）などの問題に直面しました。そういう場合は、学会週間として割り切って、若い先生には学会発表を積極的にしてもらおうように考えております。早速、森田先生には、甲状腺MALTリンパ腫の論文を作成、投稿してもらっています。部長としては6年目となりますので、求められる業績を問われるのだなどは感じております。

（晝間清）

関連病院だより 《済生会川口総合病院》

医員：四戸達也、荒井光太郎

四門会の先生方におかれましては大変ご無沙汰しております。さて、新型コロナウイルス感染症の蔓延が続くなか、2021年度は当院においても大きな変化の一年となっております。約15年来当科の主任部長として勤務されていた早坂修先生が2021年3月をもって退職され、同4月からは私（四戸）と新たに横浜市西部病院より荒井先生が派遣され常勤医師2名の体制で診療にあたっております。早坂先生の退職にあたり、これまで当院で施行件数の多かった鼻科手術を中心とする手術件数の減少を危惧しておりましたが、大学病院より宮本先生・斎藤先生をはじめとする手術支援をいただいております。この場をお借りして感謝申し上げますとともに自己研鑽を積んでいかねばならないと肝に銘じているところです。

また、外来や入院に関しては、新型コロナウイルス感染症の蔓延により一般市民にも標準予防策が浸透してきた影響か、急性炎症の症例は減少していると感じております。しかしながら、川口市周辺には耳鼻咽喉科の入院ができる施設が少なく、当院の地域に対する役割はこれまでも変わらないものと考えております。

10月末時点では新型コロナウイルス感染症の第5波はピークアウトしてきておりますが、今後も予断は許さない状況は続きます。我々スタッフも感染予防を徹底し日常診療に当たって参りたいと思います。また、当院川口市と遠方にはなりますが、諸先生方には今後とも引き続きご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。（四戸達也）



関連病院だより 《東京労災病院》

部長：高柳博久

医員：藤井正文 神山和久

2021年4月より東京大田区大森の羽田空港近くにありますが東京労災病院に勤務をさせていただいております藤井正文と申します。

現在、高柳博久部長と神山和久医師(東邦大学大森病院より派遣)(2021年11月～)と私の三人常勤体制で診療を行っております。

これまで大学病院・分院での勤務であったため、市中病院での勤務は初めてで慣れないことばかりですが、地域に根付いた医療を日々学ばせていただいております。毎日の診療の中で、これまでよりも患者様との距離感が近く感じ、また主治医制度が強いチーム制のため責任感を持ち、困った時は部長に相談させて頂きながら診療に当たることができております。

手術に関しては高柳部長と東邦大学大森病院の先生方の手厚いサポートのなか、多くの症例を執刀させていただいております。月曜日と金曜日が手術日となり、近隣のクリニックから多くご紹介頂いており、平均週に3～5件の手術を行っております。内訳としては、口蓋扁桃摘出術や内視鏡下鼻副鼻腔手術、頸部良性腫瘍、顕微鏡下喉頭微細手術、鼓室形成術など幅広い手術症例があり、専攻医の私にとっては非常に充実し、学ばせていただくことの多い環境です。

外来に関しては手術日を中心に東邦大学大森病院の外勤の先生方にもご協力いただきながら行っております。午前中は一般外来、午後には術前・術後外来やめまい外来、甲状腺などのエコーガイド下穿刺吸引細胞診、嚥下内視鏡検査・嚥下造影検査などを行っております。

入院症例に関しては急性炎症やめまい、突発性難聴、顔面神経麻痺などが多く、ご紹介いただく近隣の先生方には大変お世話になっております。

これまで入院・手術症例をご紹介頂いた諸先輩方には感謝を申し上げますと同時にこれからもよろしくお願い申し上げます。

これからも同門会の諸先生方や医局の力となれるよう日々精進して参りますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。(藤井正文)



関連病院だより 《独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター》

部長：佐々木祐幸

医員：西本寛志

R3年4月より赤羽先生から西本先生に交代となりました。新婚、おまけに専門医試験の結果待ちで、ハラハラし通しです。

外来診察は月～金の午前中です。毎週金曜日の手術日は大学からの外来診察医派遣を頂き、4月から9月まで小池先生に、10月からは堀江先生に担当をお願いしております。令和3年は1日平均20人程度の受診者数（前年と大体同じ）で、新患担当は月・水が佐々木、火・木が西本です。木曜午後に補聴器外来があります。

入院数は昨年度の平均が約2人で前年と変わらず、R2年11月からR3年10月までの入院手術件数は計136件（前年+1）、主な内訳はESS58件、扁桃摘28件（14例）、デビ15件、チューブ挿入10件、LMS4件、気切3件、鼓膜形成術1件です。コロナの影響はまだ強く、総手術件数はコロナ前の2/3程度に低迷しています。

当地に出向してから12回目の冬を迎えておりますが、H22年4月にリニューアルした当院の外観などはまだまだキレイです。嚥下内視鏡（VE）件数は、週4件程度（わずかに減）です。3年前頃の半分程度に減少しています。現状では外来患者へのVEは施行しておりません。

外来看護師は1名ですが、曜日によりCブロック（耳鼻科、眼科、皮膚科、泌尿器科）担当の3、4名のうち、1名が交代で診察介助を行っております。医療事務（MA）は引き続き高井が担当しております。写真後列右が高井、左は当科付STの平本です。主にVEを担当しております。

佐々木の私事で恐縮ですが、来る3月で大学医局講師は定年退職となります。今後は医療センターでの定年（65歳）まで引き続きよろしく願いいたします。（佐々木祐幸）



関連病院だより 《秦野赤十字病院》

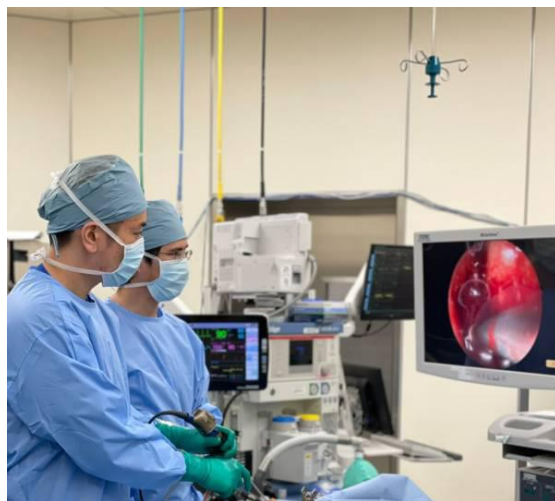
部長：三上公志
医員：小野瀬好英

2021年4月より大橋徹先生と神川文彰先生から引き継いで私、三上と小野瀬先生の2名の常勤医体制へととなりました。2名ともに異動したため、最初は外来・病棟の看護師さんを中心に今までのことを聞くことも多々ありましたが、現在は大分業務になじんできたと感じております。

外来日は月～金の午前8時40分～11時30分。手術日である金曜日以外は2名体制で外来を行っております。また、水曜・木曜日は午後の外来を予約のみ行っております。毎週水・金曜日は大学からの外来診察医派遣を頂き、4月から山田善宥先生（水曜日）、春日井滋先生（金曜日）に担当をお願いしております。

着任して大変だったことは、2021年3月までは耳鼻咽喉科専任の検査技師がいたのですが、退職されてしまい、4月からは慣れていない専任ではない検査技師が交代で聴力検査等を行うこととなり、場合によっては聴力検査に20分以上かかっておりました。そのため5件、6件と聴力検査を入れると検査渋滞が発生し、外来医師は結果を待つ状況になってしまうことも多々ありました。そのため、予約で行う聴力検査の時間調整し、なるべく重ならないように確認することもありましたが、現在は大分改善されてきています。

秦野市では耳鼻咽喉科が西本耳鼻咽喉科医院、齊藤医院、新川クリニックと当院の4つしかないため、入院施設のある当院の役割は非常に大きいと考えております。しかしながら、2年前までは常勤がおらず、手術含めて対応していなかったため、いまだすべての周辺医療機関や地域の方に認識されているとは言えない状況です。いままでも秦野の情報誌や院内広報誌にて情報発信をしておりますが、今後もよりよい医療が提供できるよう努力してまいります。（三上公志）



関連病院だより <<横浜総合病院>>

部長：田中泰彦

医員：森内 亨

2021年4月から赴任しました森内亨です。現在常勤は二人体制で田中泰彦先生の下で研修しています。月曜日午後は肥塚先生、木曜日は大学・西部病院から医局員の先生に外勤で来ていただいています。初めての市中病院勤務ということもあり、慣れないことばかりではありますが地域に根付いた医療を学ばせていただいています。また、当院は私が14年間通った母校桐蔭学園の目の前に位置しており、日々懐かしさを感じながら勤務しています。

今年度も新型コロナウイルスの蔓延が続いておりましたが、近隣の開業医の先生方からご紹介いただき入院患者数も昨年よりも増加しています。

8月末には当院でクラスターが発生し、入院の中止や不要不急の手術の中止を余儀なくされましたが、9月の中旬には入院、手術再開となっています。

当院では毎週木曜日に手術日を設けております。コロナ禍ではありますが、術前のLAMP検査、胸部CTを全例で行い手術件数も去年と比べて増加傾向です。手術内容としては口蓋扁桃摘出術・内視鏡下副鼻腔手術・顕微鏡下喉頭微細手術・鼻中隔外鼻形成術（当院形成外科合同）等です。副鼻腔手術に関しては昨年導入されたナビゲーションシステムを駆使し手術を行っております。

今後も近隣の開業医の先生方にご協力いただき、地域に根付いた医療に貢献していきたいと思っております。これからも同門会の諸先生方や医局の力となれるよう日々精進して参りますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

（森内 亨）



国内留学だより 《国立がん研究センター中央病院》

大原章裕

2014年卒、大原章裕と申します。

2020年度に大学院修了し、現在は国立がん研究センター中央病院頭頸部・食道内科にレジデントとして国内留学させて頂いています。

内科としてひたすら化学療法を行っており、臨床においても、研究においても今までと全く異なる環境で、充実した日々を送っています。

先日は、巷で話題の光免疫療法、中央病院初症例を担当致しました。アキラルックスというセツキシマブにサロタロカンナトリウムをつけた製剤を投与するのですが、薬剤そのものも、患者さんにも光を当ててはダメということで、点滴を遮光のためアルミで巻いたり、投与してから翌日の手術まで、手術中と手術終了後数日は患者さんに暗い部屋で過ごして貰ったりと、稀有な経験をいたしました(2症例目では少し緩和されましたが、)。)

しかしながら効果は絶大で、手術中光を当てているところから縮小していき、術前後では腫瘍の大きさ、形が全く異なっており、すごいものだなと感心しました。ただ、近赤外線を近くから腫瘍に当てなければならず、適応は限られ、過度なイメージが世間で先行してしまっている印象は否めません。

昨今、光免疫療法もそうですが、ゲノム医療の発展や免疫チェックポイント阻害薬の出現により治療が目まぐるしく変化しています。日々新規治療薬の開発、研究がなされていて今後もますます細分化・複雑化していくことが予想されます。外科としてだけでなく、内科としての知識も必要となっていくと考えられ、研修を終えた際に、この経験を医局に還元できるよう精進して参ります。

執筆時点では国内のコロナ患者数は落ち着いてきておりますが、オミクロン株なるものも出てきており、先生方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。今後ともご指導の程よろしく願いいたします。

国内留学だより 《東邦大学医療センター大森病院》

川島孝介

2020年度より東邦大学医療センター大森病院(以下、東邦大学)で鼻科手術を中心に勉強させて頂いている耳鼻科医6年目の川島孝介と申します。

私が今回お世話になることになった経緯としては、3年前に東京労災病院に出向した際、鼻科手術を執刀するようになり、部長の高柳先生に一から鼻科手術を指導して頂き、その魅力にはまり、何度か東邦大学の和田教授にも手術指導に来て頂いた際に丁寧な指導、流れるような手術手順、仕上がりの美しさに感銘を受けたのが始まりです。1年間の労災病院での出向を終え、聖マリアンナ大学病院本院に戻り、宮本先生や齋藤先生のもとで手術を執刀する中でスキルアップしたい、後輩にしっかりと指導できるようになりたいという思いが強くなり、谷口元准教授、齋藤先生、和田教授にご相談させて頂いたところ東邦大学の医局に所属し修練を積むことに快諾して頂き、現在に至ります。



新しい環境で仕事をするワクワク感と新しい医局に馴染めるのかという不安が入り混じっておりましたが、医局員の皆さんや外勤でお世話になっている開業医の先生方やスタッフに温かく迎えて頂き、楽しく充実した東邦ライフを過ごさせて頂いております。コロナウイルス蔓延に伴い手術ができない時期もありましたが、鼻科手術適応の紹介患者様が大変多く集まり、多くの症例を経験させて頂いております。今年度からは自ら執刀するだけでなく、後輩の手術指導も担当させて頂いております。

これからも聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科の看板を背負っていることを肝に銘じ、東邦大学の医局にもしっかりと貢献し、両方の医局に恩返しができるよう日々精進して参りますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

国内留学だより 《山王病院 国際医療福祉大学東京ボイスセンター》

堀江 怜央

後期研修医 4年目の堀江怜央と申します。OBOGの先生方にはいつも大変お世話になっております。

この度令和3年10月より喉頭疾患、音声障害分野が専門である山王病院 国際医療福祉大学東京ボイスセンターでの勤務となりました。

大学病院の外来診察で音声に悩まれている患者さんの診察を行ったことで、音声障害の分野に大変興味をもち、教授や上級医のご協力のもと、当院センターでの診察、勉強する機会を設けていただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

当センターでは歌手、声優、舞台人など、音声が必要な職業に就かれている方や、術後に声帯麻痺を来した方など、全国から様々な



音声障害で悩まれている患者さんが受診されます。このような患者さんに対して、喉頭内視鏡検査（喉頭ストロボスコーピー）、空気力学的検査、音声音響検査での評価後に、言語聴覚士による音声リハビリテーション治療を行います。音声リハビリで改善が乏しい場合は局所麻酔下声帯内異物注入術（ケナコルト、ボトックスなど）、喉頭微細手術、また喉頭枠組み術（喉頭軟骨形成術、披裂軟骨内転術）などを行います。コロナ禍で一時期手術件数は減りましたが、年間で500～600例ほど手術を行っております。ここ最近は鼻声疾患として鼻副鼻腔手術なども行っております。

音声領域は専門性が高いですが、患者さんの訴えは多種多様でありどの治療が患者さんにベストであるかの判断に難渋することも多々あります。しかし毎日が新鮮で、とても刺激的な医療に携わっております。

具体的にどの程度の期間当センターで診察を行えるかはまだ未定ですが、日々音声領域の診察、勉強に励み、聖マリアンナ医科大学病院に戻った際にたくさんの患者さんに還元ができるよう精進してまいります。

OBOGの先生方には今後もお力添えをいただくことも多々あるかと存じますが、何卒よろしく願いいたします。

OB 通信

スキューバダイビング外来について

北島明美

OB 通信にお声がけ下さり誠にありがとうございます。私は現在、論文や書籍の執筆活動の他、主人の経営する医院で診療を行っております。私のインストラクターの資格を活かせるスキューバダイビング外来も行っておりますので、少し紹介させて頂ければ幸いです。

海洋スポーツの普及に伴い、ダイビング人口は増えておりますが、それに伴うトラブルも増加傾向にあります。患者の中には趣味でダイビングを行う方だけでなく、職業としてのプロフェッショナルダイバーも少なくありません。トラブルには減圧症や呼吸器系トラブルなど様々なものが存在しますが、中でも、急性中耳炎や急性副鼻腔炎、めまいなど耳鼻咽喉科疾患が非常に大きい割合を占めます。一方、潜水医学の臨床に焦点を当てた耳鼻咽喉科的文献は限られているため、我々はダイビングによる耳鼻咽喉科的トラブルにて受診した患者に対して、一般診療に加え耳管機能検査、SVV（図1、自作器機です）を含むめまいの検査も施行し、検討を加えました（大学および外部の倫理委員会の審査をしております）。アンケート調査では、ダイビングに必要なスキルである耳抜き手技の方法も、トラブルに大きく関わっていることが分かりました。トラブルを予防するには、アレルギー性鼻炎のコントロールの他、耳管機能検査により耳管機能を正しく評価することが必要です。

当院で得られた知見は「耳鼻咽喉科領域の潜水医学」（水中造形センター）に主人が書籍としてまとめております（図2）。医局図書にも一部寄贈させて頂きましたので、もし宜しければご覧下さい。耳鼻咽喉科的トラブルは、減圧症などの、生命に即危険を及ぼす状態と比べると、症状は局所的です。しかしながら、内耳機能障害が永続的な後遺症になる場合もあれば、耳痛や副鼻腔症状、めまいのために水中でパニックを起こし、結果的に心肺停止や死亡事故に繋がることもあるため、決して軽視すべきではないと考えられました。

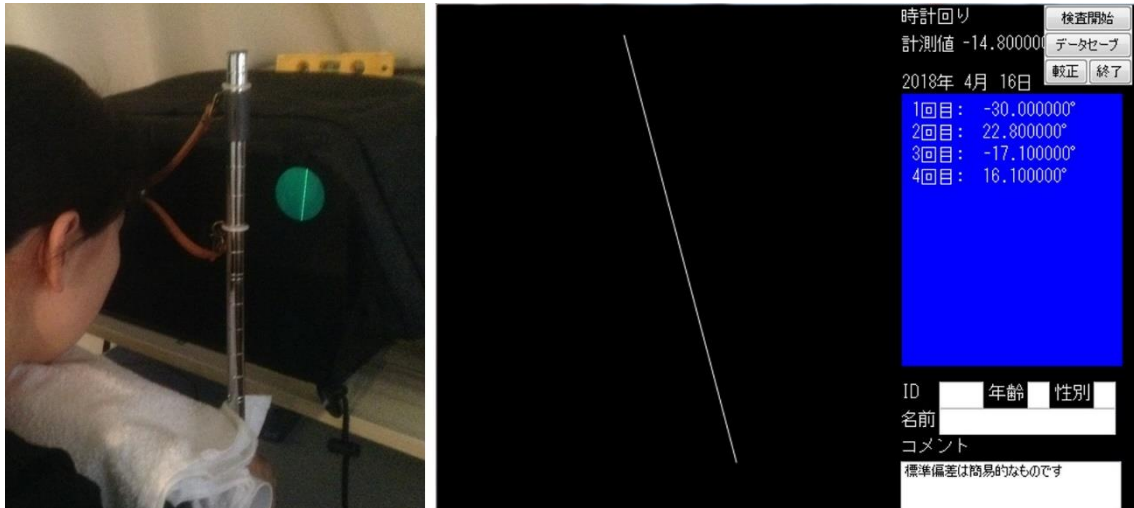


図 1



図 2

OB 通信

スミス馨子

聖マリアンナ医科大学を卒業してもう 40 年がたとうとしています。なぜ耳鼻医を選んだかは一緒に卒業した中島博明（ブー）先生に誘われたからです。私の従妹も同じ耳鼻科医局にいたため丁度良い環境だったかもしれません。そこでお会いしたのが岩沢先生、戸田先生等第 1 期卒業生の方々です。私が研修医時代には麻酔科と救急をローテーションさせていただきました。救急で担当した脳出血の患者様を放射線科に脳血管造影検査(以前は MRI が無かった)のため同行したときに脳動脈瘤破裂を起こしそこで今で言うコードブルー状態で緊急気管切開を行ったことも印象にあります。また今は閉院になっていますが向ヶ丘駅に登戸病院がありそこに派遣されていた時も鼻出血が止まらず入院となり夜間に耳鼻科の手術書を片手に上顎洞解放しその奥の顎動脈結紮術を行ったこともありました。



現在は千葉県上総一ノ宮（オリンピックでサーフィン会場となった場所です）で開業し 8 年が過ぎました。なぜ千葉かというと外房は良い波が来るため故主人の「サーフィンが出来る」という一言でここに決まったようなものです。2019 年には主人のことで 2 週間、医局の皆様にご助けられて感謝しています。私は 2 年前からサーフィンをはじめました。以前は何で重いボード`をもって波に乗るのか分かりませんでした。がやっとどうにか面白さが分かってきたところです。もっと早くから始めれば主人と一緒に楽しめたような気がします。

OB 通信

橋本久子

古道歩きが好きで、今年9月に山形県の六十里越街道を歩いてきました。六十里越街道は、鶴岡から山形までを結ぶ険しい山岳道で約1200年前から明治時代まで使われていた古道です。室町、江戸時代には湯殿山を目指す参詣者たちで賑わった山岳信仰の道でもあります。途中には即身仏を目指す僧たちが修行した跡もありました。今回、三日間をかけて松根から月山志津温泉まで歩きました。1日約5時間の歩行時間です。

初日、意気揚々と松根の八幡神社脇の畦道を歩き始めましたが、見渡す限り田んぼとソバ畑、それを取り囲む雑木林。コースが全く分かりません！元来た道に戻り、畑仕事をしている老人に道を尋ねた所「太陽に向かって山に入って行け！」と一言。哲学者！？、感動的な言葉でした（実はこれから先の行程を思い、少々暗い気持ちにもなりましたが…）。この3日間ですれ違ったハイカーは2組だけ、蛇とカエルばかりの道。所々に往年を忍ばせる石碑や塚があり、何百年も前の旅人たちに想いを馳せながら、黙々と歩き続けた（コンビニも自販機もない）3日間です。私達が、忙しい日々の中で忘れていた本当に大切なものを教えてくれる旅でした。

何年か前に熊野古道の小辺路、中辺路は歩きました。次は「伊勢路」あたりを歩きたい。そして仕事をリタイアした後、2ヶ月間くらいかけて四国巡礼の旅をしてみたいと考えています。





OB 通信

心和む時

吉野清美

隅田川の近く、ネブライザー前の大きな開かない全面窓ガラスからはスカイツリーが遠くに臨める診療所で開業してもうすぐ17年が過ぎようとしています。と言うと窓からの絶景を想像するかもしれませんが、スカイツリーの手前には鉄塔、その足元にはJR貨物の駅跡や倉庫が点在し、車で2~3分の所には江戸時代の小塚原刑場道中の汨橋跡の交差点、山谷の入り口と絶景とは縁遠い場所です。開業当時はスカイツリーもまだ着工されておらず、高層住宅が数棟だけ立ち、昭和の面影が全く消え去ってしまった新開発地域と駅の反対側には昔ながらの面影が少し残った地域との対照が目立つ場所でした。実家に近いことと駅に近くて、通勤に便利、一応都内で、新しく建ったビルだということで、全く縁も所縁もない場所でしたが、開業場所に決めました。千葉県民としては、東京都への憧れが余計に後押ししたように思います。

その後の逆転人生を狙っていた時期も通り越し、意匠に凝った割には整理整頓が行き届かず、いつの間にか片付かない診療所になってしまいました。脚立に乗って、自分で天井付けの電球を交換していましたが、切れた電球を上手くはずせず、待合室の電球が一つまた一つと切れたままになり、今では「やっていますか?」と言って来院患者が入って来るようになりました。

開業医になったことで、何から何まで自分でこなさなければならず、勤務医時代とは違った苦労がありますが、従業員をはじめ様々な人々の助けを借りて、何とか続けています。たまには、心和むひと時もあります。今年4月、80歳代と90歳代の女性が連れ立って受診しました。自分は透析を受けている身なのに、何かと90歳代の女性の面倒を見てあげていて、90歳代の女性がめまいを起こした時、救急車を呼び、耳鼻咽喉科のある病院に入院までしたのに、検査も点滴もしてくれなかったと話していました。めまいについて、通り一遍のお話をして、特にお二人とも通院の必要はないことを説明し、余り歩かなくて済むように中待合で会計をすることにして、従業員との会話に耳を傾けると「まあまあ、こんなに親切にして頂いて。」従業員が「今お釣りを持ってきますね。」と言うと「お釣りはいいから」と言っているのが聞こえてきて、余りにも可愛いので笑ってしまいました。意思疎通がうまくいかないとお互い嫌な思いをすることも多いのですが、こんなことがあると、心和み、エネルギーが湧いてきます。「お釣りはいいから」は開業17年これが初めてでした。

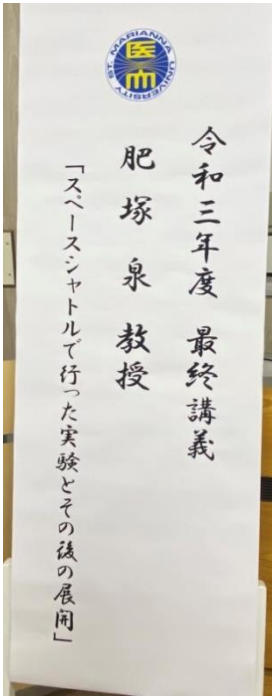


肥塚 泉教授 最終講義

同門会副会長 黒田寿史

令和3年12月16日、大学病院大講堂において肥塚教授の最終講義が行われました。現役医局員だけでなく多数の医局OBも出席されました。演題名は「スペースシャトル上で行った実験とその後の展開」でした。講演が行われた日はzozoの前澤友作さんが宇宙旅行を楽しんでいる真っ最中であつたり、双子座流星群が観察できたりと宇宙に関する話題でもりあがっていました。私が大学に在籍していた時には肥塚教授が宇宙に関するお仕事をされていることは知っていましたが詳しい内容までは存じあげませんでした。将来、多くの人が宇宙へ行くようになるとう宇宙酔いの患者がみなさんのクリニックを受診するかもしれないという話になった時には聴衆からどよめきが起こりました。大学勤務時にもう少し真面目に平衡機能疾患の勉強をしておけばよかったと今更ながらに反省です。学生時代も含めて人生の約半分を聖マリアンナ医科大学で過ごされた肥塚教授、長年のお勤め大変お疲れ様でございました。





第 25 回四門会総会報告事項

【総会議案審議結果】

令和 3 年 1 2 月 5 日 (日) に開催いたしました第 2 5 回聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会 (四門会) 総会にて審議された下記の全議案が承認多数にて承認されましたことをご報告いたします

- 【第 1 号議案】 四門会会員動向について
- 【第 2 号議案】 令和 2 年度四門会決算ならびに監査報告について
- 【第 3 号議案】 令和 3 年度役員人事について
- 【第 4 号議案】 令和 3 年度四門会賞について
- 【第 5 号議案】 連絡先不明の会員の扱いについて
- 【第 6 号議案】 新入局員勧誘費用寄付について
- 【第 7 号議案】 令和 4 年度役員人事について
- 【第 8 号議案】 肥塚 泉教授 退任パーティーにおける記念品について
- 【第 9 号議案】 令和 4 年度 四門会総会開催について

聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学教室同門会 (四門会)
会 長 服部康介

【四門会年会費免除と返納について】

四門会の年会費が 7 0 歳以上の会員は免除となっていることは聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会細則第 2 条 (2) にて規定されております。

しかしながら四門会事務局では会員各人の年齢を把握しきれておらず、会員からの自己申告にて会費免除の判断をしているのが現状です。

つきましては 7 0 歳になられた会員は四門会事務局までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

もし、7 0 歳を超えて年会費を支払われた会員がおられましたら入金状況を確認のうえ過払い分を速やかに返金いたしますので四門会事務局までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

【四門会事務局】

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室内

電話:044-977-8111 (内線 3261) FAX:044-976-8748

四門会会長 服部康介

第 25 回四門会総会議事録

【報告事項】

1. 会員数内訳（令和 3 年 9 月 6 日現在）
総会員数：147 名
うち現医局員：37 名
2. 会員異動 無し
3. 新入会員
在^{ありの}原^{りょう} 理^り瑛^{えい} 令和 3 年 4 月 1 日 入職
平成 30 年（2018 年） 東京女子医科大学卒業
岡^{あかの}野^の 洋^{よう}平^{へい} 令和 3 年 4 月 1 日 入職
令和元年（2019 年） 聖マリアンナ医科大学卒業
小^{こいけ}池^{いけ} 遙^{よう}介^{けい} 令和 3 年 4 月 1 日 入職
令和元年（2019 年） 聖マリアンナ医科大学卒業
本年度新入会員上記 3 名が承認された。
4. 退会会員
竹山 勇（物故） 令和 3 年 6 月
5. 会計報告（令和 2 年 10 月～令和 3 年 9 月）
別資料参照
承認された。
6. 令和 3 年度役員人事（令和 3 年 4 月～）
会 長 服部康介
副会長 佐久間 惇、黒田寿史
顧 問 加藤 功、大橋 徹
推薦理事 肥塚 泉
理 事 赤澤吉弘、岩武博也、上杉恵介、
越智健太郎、春日井 滋、勝見直樹、
木下裕継、釘持 睦、小松崎 靖、
小森 学、佐々木祐幸、佐藤成樹、
新谷敏晴、スミス馨子、瀬尾 徹、
田中泰彦、中村 学、晝間 清、
深澤雅彦、三上公志、南 定、
宮部 聡、宮本康裕、谷口雄一郎、
渡辺昭司

(50 音順)

監 事 芋川英紀、岡田智幸
事務局長 齋藤善光

【協議事項】

7. 令和 3 年度四門会賞候補
1) 望月文博：EQUILIBRIUM RESEARCH 誌
最優秀論文賞“偏垂直軸回転（off-vertical axis
rotation：OVAR）条件下における平面スクリーン
を用いた視覚刺激が半規管－動眼反射および耳石
－動眼反射におよぼす影響”
2) 肥塚 泉：耳鼻咽喉科教育・育成功労賞 2020
、前庭神経炎 診療ガイドライン 2021 年版発刊
作成委員長
3) 齋藤善光：日本気管食道科学会奨励賞“咽喉頭
食道異物を主訴に受診した 1714 例の検討”
本年度四門会賞は上記 3 名が推薦され、承認され
た。
8. 連絡先不明の会員について、1) と 2) を分けて審
議した。
1) 名簿に名を残すが会費請求しない代わりに同
門会誌を送付しない。
承認された。
2) 議決に必要な会員数に含まない。
承認された。
9. 新入局員勧誘費用
例年 30 万円の寄付を行っているが令和 3 年度は
審議が間に合いませんでしたので令和 4 年度は 2
年分の合計 60 万円を寄付する。
承認された。
10. 新役員人事
1) 次期会長については現会長。服部康介が継続
承認された。

- 2) 新理事承認について
依道 淳：理事に推挙
小宅大輔：理事に推挙
承認された。
 - 3) 副会長推挙について
勝見 直樹：副会長に推挙
新谷 敏晴：副会長に推挙
承認された。
 - 4) 今年度でスミス馨子先生 定年退任
11. 肥塚 泉教授 退任パーティーについて
令和4年5月21日(土) 18:00～
帝国ホテルにて開催予定
同門会から記念品や花束贈呈等を検討記念品については会長一任で承認された。
 12. 令和4年度 四門会日時
日時：令和4年12月4日(日) 予定
場所：京王プラザホテル
 13. その他
小松崎 靖先生が10月31日をもって理事を辞任

今後数年間で定年による理事の減少が見込まれる。従来の医局長経験者及び講師以上の経験者のみでは増加は見込めない。

新しく理事を推挙する上で今後規定を設けるべきとの意見があった。来年度理事会の議題とする。

女性理事を増やす方針とすべき。

Zoom等を使ったONLINEでの会議参加も可能である


令和2年10月～令和3年9月

令和2年度繰越金	¥1,853,001	
	収入	支出
年会費	¥1,116,700	
四門会誌第28号印刷費		¥223,326
四門会賞(2名)		¥100,000
通信運搬費		¥80,174
秘書日当(鈴木)		¥10,000
利息	¥14	
70歳以上会員への年会費返金		¥20,000
慶弔費		¥84,459
		¥517,959
次年度への繰越金	2,451,756	


監査報告

202/9/30

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室
同門会(四門会)
会長 服部 康介 殿

堀田 智幸 

監事

茅川 英紀 

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室 同門会(四門会)令和元年度収支決算に関する
証拠書類を慎重に審査しましたところ適正であることを認めます。
また、会務は適切に施行されていることを認めます。

監査報告の日付について

202/9/30 は 2021/9/30 の誤りです。訂正し、お詫び申し上げます。

第 25 回 四門会総会 写真



聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会会則

第1章 総 則

第1条 (名 称)

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会（四門会）と称する。

第2条 (事務局)

本会は、事務局を聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室内に置く。

第2章 目的および事業

第3条 (目 的)

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の進歩発展と学術事業に対する援助を行うとともに、会員相互の学術研鑽並びに親睦を図ることを目的とする。

第4条 (事 業)

本会は、前条の目的を達するために、次の事業を行う。

- (1) 学術研究会および講演会等の開催
- (2) 総会および親睦会の開催
- (3) 四門会誌・名簿・その他出版物の発行
- (4) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の後援
- (5) その他、本会の目的を達成するのに必要な事項

第3章 会 員

第5条 (会員)

本会は、次の者をもって会員とする。

- (1) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室在籍者
- (2) 聖マリアンナ医科大学関連教育病院耳鼻咽喉科在籍者
- (3) 本会の目的に賛同し会長あるいは理事会において承認された者

第6条 (会員の入退会手続)

- (1) 本会に入会を希望するものは、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、理事会の承認を得なければならない。
- (2) 前条(3)項に該当する者は、会長あるいは理事会の推薦を得た後、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、総会で承認を得なければならない。
- (3) 本会の退会を希望する者は理事会の承認を得なければならない。

第7条 (会 費)

- (1) 会費は細則に定めるところにする。

- (2) 会費は前納とする。

第4章 役員

第8条 (役員)

本会は会長1名、副会長2名、理事数名、事務局長1名、監事2名を置く。

第9条 (役員の任期)

- (1) 本会の役員の任期は、原則としてその都度議を得るものとする。ただし、再任を妨げない。
- (2) 役員に欠員が生じた場合、補欠役員がその職務を行う。
- 補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。
- (3) 役員は、その任期満了後も後任者が就任するまでは、その職務を行う。

第10条 (役員の職務、権限)

- (1) 会長は本会を代表し、会務を総括する。
- (2) 副会長は会長に支障が生じた場合、その職務を代行する。
- (3) 理事は理事会を構成し、会則に定めるものの他、本会の業務を議決し、業務を執行する。
- (4) 監事は本会の業務ならびに会計を監査する。
- (5) 事務局長は理事会のもとに事務局を統括し、会務の遂行にあたる。

第11条 (役員を選任)

- (1) 理事および監事は会員により推薦され、理事会の議を得て、総会にて承認得たものとする。
- 選出の方法は細則による。
- (2) 理事の中に推薦理事と顧問を置き、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授を推薦理事とする。また、教授退任後は顧問とする。
- (3) 会長、副会長は理事の互選とする。
- 監事は理事および事務局長を兼ねることはできない。

第5章 会議

第12条 (総会)

- (1) 総会は年1回会長が理事会の議を経て、これを召集する。
- (2) 総会は会員の3分の1以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。
- (3) 総会において会長は議長とし、事業計画ならびに収支予算についての事項、事業報告および収支決算についての事項および本会の運営に関する重要事項の承認を受けなければならない。
- (4) 総会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- (5) 会長が必要と認めた場合、あるいは会員の要望がある場合において、会長は理事会の議を経て、臨時総会を召集することができる。

第13条 (理事会)

- (1) 理事会は会長がこれを召集する。

- (2) 理事会は現理事数の3分の2以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。
- (3) 理事会において会長は議長となり、本会の事業を企画し、必要な一切の事項を審議し運営する。
- (4) 理事会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- (5) 監事は理事会に出席し意見を述べることはできる。ただし、票決に加わることはできない。

第6章 事務局

第14条（事務局）

- (1) 本会の一般業務を処理するために、本会の事務局内に事務局を置く。
- (2) 事務局の構成は事務局長1名、事務局員若干名とし、選出方法は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室医局に一任する。
- (3) 事務局長は理事会に出席する。

第7章 会計

第15条（本会の経費）

本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあてる。

第16条（会計年度）

本会の会計年度は毎年10月1日に始まり翌年9月30日に終える。

第8章 会則の改正

第17条（会則の改正）

本会則を改正するには理事会の審議を経て、総会の出席者の3分の2以上の議決を得なければ変更することができない。

第9章 その他

第18条（その他）

本会則を施行するに必要な細則を別に定める。

<附則>

第19条（本会則の発効）

本会則は平成9年12月1日から発効する。

本会則は平成12年12月3日から発効する。

本会則は平成16年11月28日から発効する。

本会則は平成18年12月3日から発効する。

本会則は平成24年12月2日から発効する。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会細則

第1条 本細則は会則第18条によりこれを定める。

第2条 (会費)

- (1) 会費は年会費とし、次のごとく定める。
 - ・ 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室および同関連教育病院現医局員の会員は年額 5,000 円
 - ・ その他の会員は年額 10,000 円
- (2) 70歳以上の会員に対しては理事会の議を経て、会費及び同門会参加費の免除を行い、名誉会員とする。

第3条 (役員を選出)

- (1) 役員の定数は、理事 15名以上、監事2名とする
- (2) 選出方法は理事会に一任する。
- (3) 会長および副会長の選任は理事の互選による。
- (4) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授は会長を兼任できない。
- (5) 会長は聖マリアンナ医科大学卒業生に限る。
- (6) 会長、副会長の任期は3年2期までとする、ただし再任は防げない。
- (7) 役員は65歳で定年とする。

第4条 (慶弔)

会員にかかる慶弔は理事会に一任する。

<附則>

第5条 (本細則の発効)

本細則は平成9年12月1日から発効する。

本細則は平成11年11月28日から発効する。

本細則は平成12年12月3日から発効する。

本細則は平成16年11月28日から発効する。

本細則は平成17年12月4日から発効する。

本細則は平成22年12月5日から発効する。

本細則は平成27年11月29日から発効する。

《編集後記》

今回の表紙は、肥塚教授の最終講義の際に撮影した、医局員とご参加いただいたOBの先生方の集合写真と致しました。最終講義は、病院本館3階大講堂で開催され、立ち見が出るほどの大盛況で終わっております。肥塚教授の講義はこれまで学生時代から何度も受けてきましたが、やはり、最終講義となると強く寂しさが募りました。本来であれば講義終了後、大宴会を開いてお祝いをしたかったのですが、コロナの影響もあり開催出来ず、寂然としない気持ちで一日が終わったことを覚えております。2022年5月には、肥塚教授の退任パーティーを予定しております。あらゆる開催方法を模索し、是が非でも開催を試みたいと考えておりますので、四門会の先生方は是非ご参加の程宜しくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の先が見えない状況が続いておりますが、先生方の健康と益々のご発展を祈念しております。(齋藤善光)